



轟音、圧迫感、落下物の危険



区内タワーマンションの上を通過する航空機。マンション住民からも「窓を閉めていてもうるさい。イライラする」との声が寄せられています。

住宅地を低空飛行する羽田新ルート コロナで減便でも運用強行 なぜ、区長は中止を国に求めないのか

6月26日に中塚区議が区議会本会議で行った質問の概要を紹介します。全文は区議団ホームページにて掲載しています。

本当にやめて

「感染防止のために窓を開け換気をしていると、飛行機の轟音が飛び込んでくる。本当にやめてほしい」「落下物や墜落など、いつか何か重大事故が起きるのでは」と怒りや恐怖の声が寄せられています。

こうした中、品川区長は5月20日に国交省に要望書を提出。しかし、

その内容は肝心のルート変更を求めることは無く「騒音対策の実施を」と記すものです。航空機が住宅地を低空飛行する限り、騒音等の被害は解決しません。従来の海上ルートに戻すことが、唯一の対策ではないでしょうか。

国策だから…区長

国にルート変更を求めない理由を品川区は「国策だから、賛成も反対もしない」と説明します。

そこで「国策だと、なぜ区長は中止を国に求めないのか」と区の姿勢をただしました。

区は「区民の不安払しょくに向け取り組んでいる」などと述べ、中止を国に求めない理由を示すことはありませんでした。

区はこれまでも「新ルートを固定化しない取り組みの実施を国に求めている」とは述べますが、頑なに国に「ルートの変更を求める」ことを拒んでいます。

“固定化しない”とは玉虫色の言葉です。

明確に中止を求めないとは、国に「品川区の理解は得られた」との勝手な判断を与えるだけではないでしょうか。

減便中なのに増便のための本格運用

しかも、いま世界的な新型コロナウイルス感染症の影響で航空機需要が激減しています。

羽田新ルートは「羽田

空港の国際線を増便する必要がある」が実施の理由です。減便しているのに、増便のための新ルートは全く必要ありません。また、最近では国内線が増えてきてますが、それでも当初の航空機需要の半分ほど。今でも繰り返し低空飛行が実施されていますが、想定外の航空機需要が回復すれば、2倍の便数が品川を低空飛行することになります。

◆ ◆ ◆ 区長はなぜ抗議しない

区議会でも「コロナで減便でも本格運用が強行されたことに、区長はなぜ抗議しないのか」と質問しました。

しかし品川区は「国交省が固定化回避に向けた検討会を立ち上げるとした。早急に具体的な方策

を示すよう国に求める」と述べるに留まりました。この国の検討会とは「固定化回避のための技術的検討」とされ、ここでも国交省は「ルート変更のための検討」とは決して説明しません。


先ほども述べた通り、従来の海上ルートに変更することが航空機公害から住民を守る、唯一の対策なのです。

◆ ◆ ◆ 経済効率最優先で良いのか

この羽田新ルート問題は「経済効率最優先の政治で良いのか」が問われていると思います。経済の為なら住民の犠牲はかまわないとは、あまりにひどい政治です。住民の生活や暮らしがあつての経済ではないでしょうか。計画撤回へ、引き続き力をあわせましょう。

羽田新ルートの賛否を問う住民投票の成功を！

幅広い市民で発足した「実効委員会」では、羽田新ルートの賛否を問う品川区民投票の準備が現在、進められています。当初は3月にも、1ヵ月間の法定署名集めを実施する予定でしたが、コロナ感染が広がる中、実施を延期とし、現在は、署名を集める人（受任者）を募っているところです。署名集めの時期については、10月始めを予定しているとのことですが詳細はこれからです。住民投票を成功させ、区民の民意を示しましょう。 なかつか亮

なかつか亮 1975年品川区西大井生まれ／44歳／03年に27歳で初当選し、5つの常任委員会をはじめ、予算・決算委員会副委員長や行革特別委員会委員長を経験／区議5期／党区議団幹事長／家族：妻／29号線認可取消裁判原告／趣味：料理、旅行 

なかつか亮の駅前宣伝 火曜日朝7時半～大井町駅、金曜日朝7時半～西大井駅、土曜日夕方4時～大井町駅
スタッフ募集：区政報告を駅前宣伝で配付して頂ける方を探しています。少しの時間だけでも助かります。